

「跡」第37集の発刊によせて

仙台市小学校教育研究会理科部会
会 長 飯 村 俊 幸

仙台市小学校理科部会の皆様のおかげをもちまして今年度の活動が滞りなく終了することができました。会員の皆様のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

「跡」第 37 集に先生方から貴重な原稿をいただき、授業を通しての様々な提言や実践記録をご紹介いただきました。ご多用中、事前検討会を開くなどして、各学年部の研究授業の指導案や記録などの原稿をお寄せいただきました諸先生方はもちろん、「跡」の編集委員の皆様に、感謝申し上げます。

今年度の理科部会では研究主題を「科学する楽しさを体感できる子どもの育成－実感を伴った理解を目指して－」として、理科部員の先生方を中心に日々の実践授業を通してテーマに迫っていただきました。

特に本年度は、10月に仙台市が会場となった県大会が開かれました。今回の県大会は、従来型とは異なり、仙台市の教育研究会における理科部会の取組を紹介するものとなりました。3年～6年まで4会場で4つの提案授業に会員が参加するもので、仙台市の理科部では定着した形に県内の先生方にも参加していただくこととなりました。沖野東小学の山田洋一校長先生を中心とした実行委員会の皆様の準備と、授業研究部を中心とした会員皆様の授業づくりへのご協力もあって、4会場あわせて200名ほどの先生方の参加を得て、大きな成果をあげることができました。

仙台市の理科研究会では、以前から授業研究会を中心として「参加者の明日の授業に役立つ授業研究」のため、年8コマの実践授業を目指して取り組んで来ました。本年度は、県大会もあり、授業研究部の呼びかけに若い先生方が積極的に応えて8コマの授業研究会を行うことができました。これも、大きな成果だと思います。

11月と2月に開催された授業研究においては、会員の方々がお互いに日程を調整し、それぞれの学年部会で指導案検討会を開いていただきました。2月の授業研究会でも、160名ほどの先生方が各会場に集まりました。各会場校では、授業検討会にもたくさんの先生方が参加し、児童の反応や指導の効果について具体例をもとにした話し合いにより、参加者の方々がお互いに勉強になったという感想が聞かれました。

おかげさまで今年度も大きな成果を上げることができ、その取組についての記録を「跡」にまとめていただきました。また、指導案は理科研究会のWebページにも掲載しました。10月の授業をご提供いただきました柳生小の新谷真吾先生、向山小の戸田尚義先生、愛子小の鈴木崇洋先生、栞江小の豊川秀樹先生並びに2月にご提供いただきました七北田小の高橋圭先生、荒巻小の佐藤絵美先生、西多賀小の栗原直弘先生、広瀬小の井上かおり先生に心より感謝申し上げます。

また、本年度も仙小理科研のWebページの充実を図っており、授業研究会の予定や指導案等を載せて、ふだんの授業に使えるようにしています。<http://www.sendai-c.ed.jp/~shorika/>こちらも、ご活用いただきたいと思います。

最後になりましたが、理科部会の活動を支えていただきました会員の皆様に感謝申し上げます、あいさつといたします。